

今月の特集

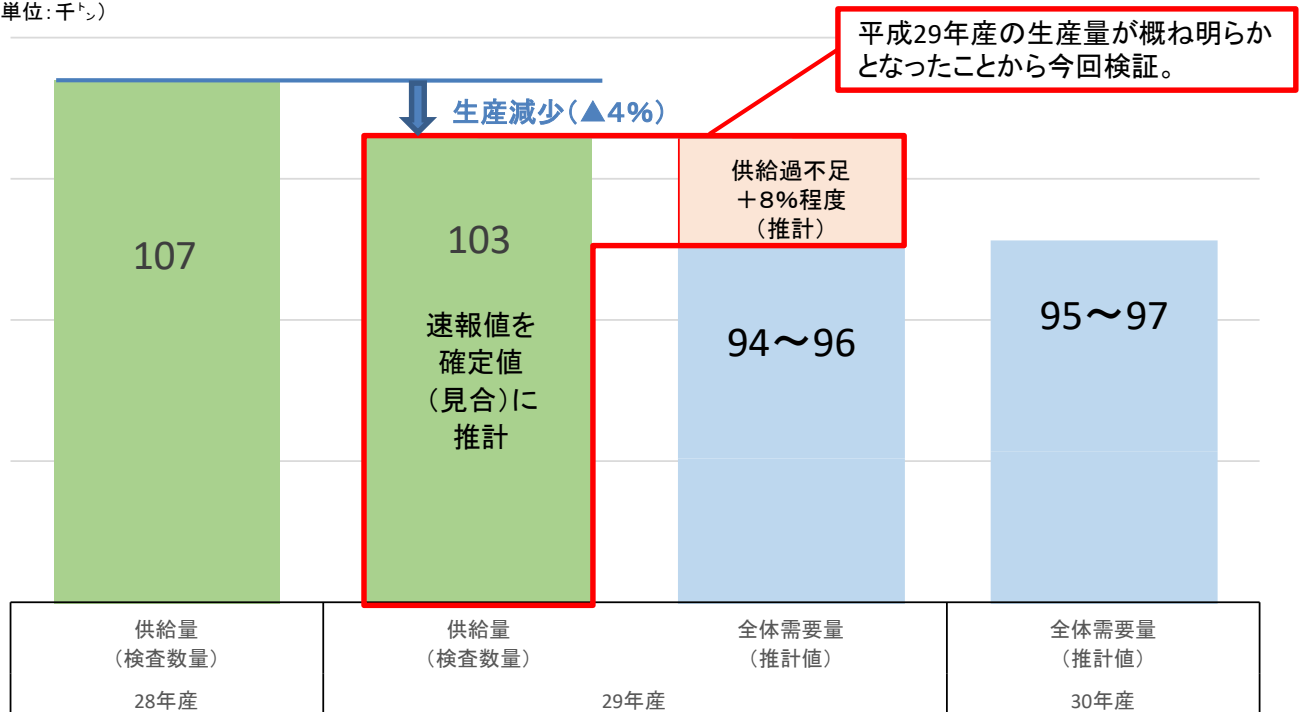
【酒造好適米の平成29年産生産状況】 （農産物検査結果に基づく推計）

【酒造好適米の平成29年産生産状況】

- 平成29年産の酒造好適米の生産量については、平成29年産の需要量（94～96千ト）（推計値）と均衡させるためには平成28年産の生産量（107千ト）から▲10%程度の生産減が必要としていたところ。
- 今般、平成29年産酒造好適米の農産物検査数量（12月31日現在）がとりまとめられ、生産概況が明らかとなったが、五百万石を中心に生産量が減少し、生産量は平成28年産から▲4%程度（▲4千ト程度）の103千ト程度と見込まれる。
- この結果、平成29年産米の需給は、生産量が需要量を8%程度上回る状況と見込まれる。
- 平成30年産の作付けに当たっては、引き続き需要量調査結果や生産量等のデータを参考にしつつ、自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、需要に応じた生産に取り組むことが重要と考えられる。

酒造好適米の全体需給状況見通し(推計)

（単位：千ト）



注1： 供給量は、農産物検査数量（醸造用玄米）の値。ただし、平成29年産は、平成29年12月31日現在の速報値を直近3カ年の12月31日現在の農産物検査数量の進捗率により確定値見合いに推計。

注2： 平成29年産及び平成30年産の需要量は、平成29年7月に実施した需要量調査結果から推計したものであり、それ以降の酒造メーカーにおける需給状況により変動する場合があることに留意する必要がある。

平成29年産酒造好適米の銘柄別生産状況

- ・ 平成29年産酒造好適米の生産量は、直近3カ年の12月31日現在の農産物検査の進捗率から103千トと推計。平成28年産に比べて▲4%程度となる見込み。
- ・ 主要な品種では、山田錦は増加する一方、五百万石及び美山錦は減少する見込み。特に五百万石は、主産県において需要に応じて作付面積を減らしたことや作柄が悪かったことなどから2割近く減少する見込み。

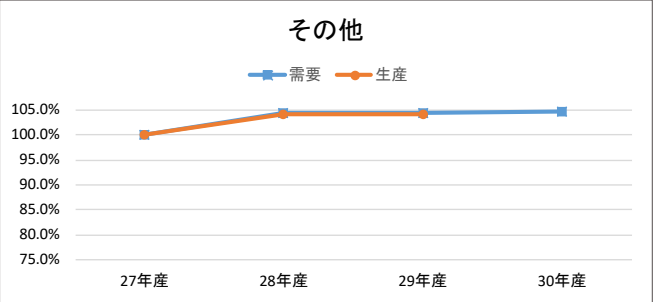
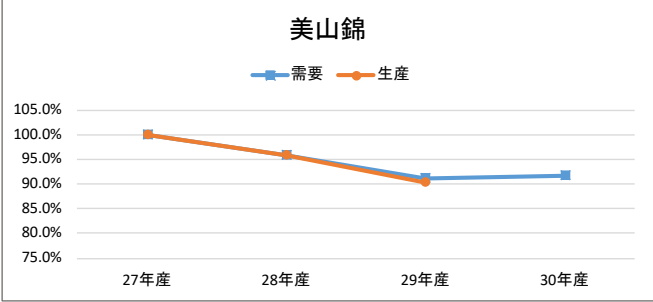
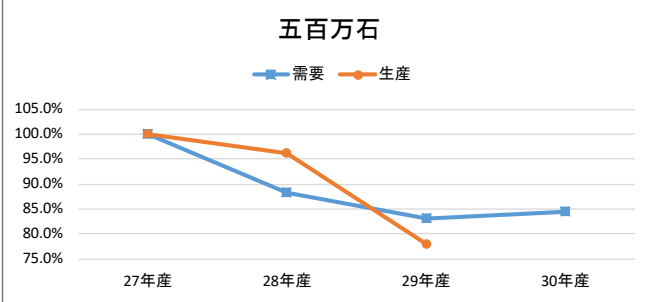
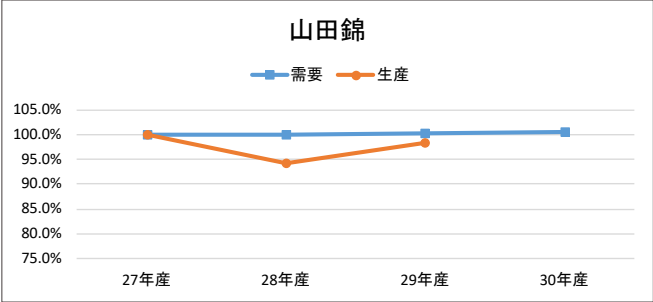
農産物検査結果及び29年産生産量の推計

(単位:トン、%)

品種	26年産		27年産			28年産			29年産		
	12月31日現在	確定値	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	確定値	対前年比	12月31日現在	推計値	対前年比
山田錦	28,765	29,812	37,697	39,549	132.7%	36,563	37,257	94.2%	37,558	38,880	104.4%
五百万石	20,980	22,596	24,497	27,078	119.8%	22,644	26,030	96.1%	19,017	21,107	81.1%
美山錦	8,010	7,786	7,565	7,838	100.7%	7,272	7,513	95.9%	6,977	7,069	94.1%
その他	28,489	29,991	32,750	34,332	114.5%	33,165	35,817	104.3%	33,490	35,743	99.8%
総検査数量	86,244	90,185	102,509	108,797	120.6%	99,644	106,618	98.0%	97,042	102,799	96.4%

生産量と需要量の増減率の比較（平成27年産基準）

- ・ 平成27年産を基準として酒造好適米の生産量（農産物検査数量）と需要量（需要量調査報告数量）の増減率を比較すると下表のとおりであり、全体的にはほぼ需要の増減の動きに応じた生産動向となっていることがうかがえる。
- ・ 下表は需要動向に応じた生産動向となっているかを増減の動きで検証したものであり、定量的、地域的な需要の過不足を表しているものではないことに留意。したがって平成27年産において需給が均衡していたとするものではない（平成27年産は酒造好適米全体で生産量が需要量を10%程度上回る状況）。
- ・ 平成30年産に向けて、各産地においては、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率や作況等のデータを参考にしつつ、これまでの自らの生産量や販売動向、酒造メーカーからのニーズ等を踏まえ、引き続き、需要に応じた生産に取り組むことが重要。



以上のほか、産地品種銘柄ごとの生産量と需要量の増減率等の詳細な情報は、以下のURLを参照ください。
URL : http://www.maff.go.jp/j/seisaku_tokatu/kikaku/sake.html